

被成候。印行の儀も被上候上にて、御窺不被成候ては成間敷候旨被仰候。大極圖說の解も、御吟味被成候。其外もか様の類御座候得共、何もかも先御指止被成候て、右冊子に御懸り被成候由。御講書も六々に御極置、一月に三度宛に候。孟子と近思錄を送に被講候。聽衆も餘る程に御座候得共、篤志の衆は四五輩ならで無之候。御役人衆の内にては、誰殿と御尋申上候へば曾て無之候。役人衆は惣て閑暇衛門弟子の内も、罷越候もの有之候。是は彼が學を信仰と申にては無之候。荻生事業を好候て平生簫を吹居候。禮樂と申に禮は嫌にて候。孔子武城にて絃歌の聲をきゝ給ひて、それに付て子游君子小人學道の語あり。此道と云字は樂の事に候。聖人之道は樂に在之事の旨、か様成妄說共を申候とて御笑被遊候。右の通に候處、黒田殿も樂を好み被申候故、荻生並弟子をも呼被申候旨御唱り賴母敷事は無之候得共、よほど學問は好み被申候旨御唱に候。頃日も荻生事被申出候て、變化氣質と申事、學問に

てはならぬ事の旨荻生申候。難心得と存じひたと及問答候得共、終に合點不仕と被申候由。安藤對馬守殿よりは餘程宜敷可有之と、珍重被思召候旨被仰候。中村玄春老願にて頃日通書を御講じ被成候。終に御よみ不被成候へども、替りたる事も有之間敷と思召、右の望に任せ御講被成候へば、替りたる事も無之旨被仰候。此等の御物語共承り、半時計罷在退出仕候。駿臺雜話義集を拜讀仕候。是にて全部相濟申候。此集には仁義の説浩然の氣、敬の説など御座候て、別て親切成儀多く御座候。惣て此冊子異論邪説を御警戒の説多く御座候間、印行罷成候はゞ何かと申もの共多く可有之候。其段申上候へば、先生も左様に被思召候旨被仰候。以上。

十月十六日 遼 路

一、蝗害の届出

紀州・勢州之内、田方三拾壹萬五千五百石。内拾貳萬六千貳百五石當荒。十八萬九千三百五石大傷。

紀伊 様

一、蝗害の届出

紀州・勢州之内、田方三拾壹萬五千五百石。内拾貳萬六千貳百五石當荒。十八萬九千三百五石大傷。

重て損亡御届之方

右の通に候處、黒田殿も樂を好み被申候故、荻生並弟子をも呼被申候旨御唱り賴母敷事は無之候得共、よほど學問は好み被申候旨御唱に候。頃日も荻生事被申出候て、變化氣質と申事、學問に

の事なし。可疑。

伯州・因州蟲入損亡高十萬石餘	因州鳥取三十二萬五千石
蟲入損亡高壹萬三千五百石餘	松平相模守
蟲入損亡高三千石餘	播州三ヶ月一萬五千石
蟲入損亡高二萬七千五百石餘	森安藝守
蟲入損亡高三千五百石餘	雲州母里一萬石
但州豐岡蟲入損亡高六千五百石餘	松平志摩守
但州・播州蟲入損亡高壹萬石餘	但馬豐岡一萬五千石
一、羽喰郡神子原村の地割	京極修理
十月十八日・十九日、能州羽喰郡神子原村の近地に割目跡	白銀百枚
來、こゝかしこ高下も出來候。人馬に死傷無之、村屋も倒不申候。時として有之儀の由にて、土人是を蛇ばみ・蛇ぐひ・蛇ぐへ・蛇持・貝割など、稱候。地陷の類にても候か。同日射水郡角間村にて、木戸山幅六十間餘、高さ二十餘丈崩候。其東南に猶裂口見え候よし。石動山の方へより候由。神子原村は公領御領地の方へもかゝり、此方へもかゝり候。御領分の分千五百六拾步計、御領地の方百間四方計の内、右の趣に候事。	日光山准后
	東叡山護持院
	石清水八幡宮
	同三拾枚宛
	以上便焉蒙
	右は今年西國・中國・四國等蝗災爲非常之事、御祈禱被仰付旨、十月二十八日被命候。

一、黒青と申す點

黒青と申獸、額に眼一つ有之、小きは駒ほど、大きなるは狐ほど有之、人にはかまひ不申候。牛馬の前を通候へば牛馬即斃候。西國・四國筋へ出候て、長門國迄出候旨、江戸廻状の寫十一月二十七日に來る。

愚謂。右の妖獸を以て黒青と爲すこと如何。黒青は宗末、明季に出て髪號として獸形をなす耳。牛馬視之即死する事なし。可疑。

一、新婦家系等の儀室鳩巣來狀